

# 19 年度紀要

## 序 文

看護学部長 加 藤 光 寶

本看護学部において、平成19年度は学部開設年度であり、学部の運営はもとより、教育に向けて様々な準備が主たる活動となりました。ある意味で、多忙を極める年度でした。多くの教員は、大学の開設に関わることは、はじめての経験であったことが、気持ちの上で、実際以上の負担感につながったことも推測されます。

4月に、第一回生が入学し、教育が動き出した本学部は、完成年度を経た大学とは異なり、教育の準備や実施に、多くのエネルギーを要しました。領域によって多少の異なりはありましたが、おおむね研究時間の捻出には、苦慮していたことも見受けられました。このようななかで、それぞれは、それなりの努力をされて紀要の投稿にこぎ着けたのが実情だろうと思います。

しかし、開学年度だったからあわただしかったのではなく、これからは、教育が進行して専門領域の教育活動が具体化していき、実学教育が主体である学部において、教育活動に多大な時間を費やすこととなります。その上で、学問分野の発展に貢献できる研究が必須のことです。教育も研究も、十分に力を発揮して頂きたいと思います。

毎年、開設される大学の数は増えています。このような状況の中で、研究活動を最初の紀要に投稿した教員各位の努力は、価値の高いものでしょう。締め切り時間すれすれに提出し、査読に 대응するために徹夜をしている姿もありました。厳しい指摘に気落ちする場面もありました。お互いに切磋琢磨して居るであろう息吹の元に、研究推進委員の活動も熱いものに思えました。

出版にあたって、種々の作業に当たる委員会メンバーと投稿した教員、これを支えた方々、それらの結集が第一版の賜であると確信しています。

単年度の研究ですが、紀要に投稿し、さらに質を高めて、看護系学会誌に掲載されるべく、努力を重ねて頂きたいものです。そして、さらに看護学の発展に寄与できる研究を目指して下さい。

平成20年4月